

緑が丘地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 平成30年9月25日
午後3時00分～5時15分
- 2 場 所 緑が丘町公民館2階中会議室
- 3 参加者 緑が丘地区 11人
市 22人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、危機管理課長、企画政策課長、生活環境課長、商工振興課長、道路河川課長、プロジェクト推進課長、交通政策課長）

オブザーバー 7人

4 内 容

- (1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり
- (2) 意見交換

【緑が丘地区】

明石駅前の再開発など人口増に繋がっている事例がある。緑が丘駅前の活性化について、お金がかかることだが、リスクを恐れずに取り組んでいただければ人口増にも繋がる。また、緑が丘駅前は緑地帯が多く、もったいないと感じている。緑地帯を駐車場に整備してはどうか。緑が丘は三木市の東の玄関口であり、ホテルの整備など再開発すれば成功すると考える。次に、通学路について、運転者への注意喚起の看板を設置いただき、運転者の目にも留まり、いいと思う。ただし、300mの区間に1か所のみを設置であるので、増やしていただければより効果があると考え。本町地区の歩道の整備についても取り組んでいただいております、歩きやすくなったと感じている。引き続き残りの箇所の整備にも取り組んでいただきたい。

【都市整備部長】

緑が丘駅前の緑地帯についてはそれなりの目的があつて

のことだが、車を一時的に待機できるスペースとしての使用が可能かどうかを含めて現場を確認したい。また、緑が丘駅前の整備については、市の若手職員による検討会でのホテル整備案等が可能かどうかを検討しているところであり、今年度中に結論を出して皆さんに報告する予定である。

【道路河川課長】

本町地区の歩道整備については、緑が丘駅前から順次進めており、今年度も引き続き進めていく。今年度中にすべて整備できなくても、来年度にはすべて整備する。

【生活環境課長】

通学路については、運転者への注意喚起のための電柱幕を設置した。当該箇所は300mの区間であり、効果がある場所には電柱幕を追加して設置していきたい。

【緑が丘地区】

サンロード商店街のカラオケ店について、近所の方が騒音に困っていることから、カラオケ機器の使用時間帯を制限できないか。店にお願いしても聴いてくれない。午前3時や4時頃までカラオケをしているときもある。

【生活環境課長】

兵庫県の環境の保全と創造に関する条例により、第一種低層住居専用地域では午後11時から午前6時まではカラオケ機器が使用できない。ただし、音が漏れない装置があれば、その限りではないということになっている。これに違反する事実があれば、同条例にそって要請し、指導を行う。

【緑が丘地区】

騒音に対して何デシベル以下などの規制はできないか。

【生活環境課長】

カラオケ店は騒音規制法の対象外であるため、規制できない。

【緑が丘地区】

緑が丘駅前の整備が保留状態になっている。緑が丘駅前の活性化を早く実行していただきたい。人口増のため、他市からの移住促進に向けて、緑が丘駅前の活性化が必要であると考える。

【都市整備部長】

緑が丘駅前の整備については、検討しているところである。民間での土地活用も選択肢に入れつつ、郊外型住宅団地ライフスタイル研究会とも連携を図りながら考えていきたい。

【緑が丘地区】

高齢化となり、自治会の運営に危機感を持っている。働いている人は何かあっても動けないため、区長は仕事をリタイアした人が多い。高齢になると、会費は払うが役員は引き受けられないと断られる。1人が断ると他の人も断り、連鎖していく状態であるところを役員が説得しているところである。このような状況では自治会を維持できない。もっと具体的な高齢化に取り組んでいる事例を教えてください。

【市民生活部長】

それぞれの自治会でそれぞれの悩みがある。緑が丘は高齢化が進んでおり、若い人にどう自治会に関わってもらうかが重要である。若い人は直接生活に関係あること以外はなるべく関わりたくない傾向がある。しかしながら、ゴミや防犯灯などは行政と自治会が一緒に取り組んでおり、自治会に加入することでメリットがあることを理解してもらうことが必要である。役員についても、大変で忙しいが、多様な役割を住民みんなで協力して担い合うことで、お互いの負担をならして無理なく役割を果たしあえる関係をつくる必要がある。また、イベントなどの際に、若い人に企画に関わってもらって、役員が次世代の人材育成を担うような取組もいいのではないか。ベテランと若い人のコラボから取り組み、世代交代にうまくつなげていただきたい。いろいろ他市の事例も調べている。例えば、NPOなどが自治会活動に関わるようになれば、違う視点でのイベントができるのではないか。世代別役員構成を導入すれば、いままで自治会活動に関わっていなかった世代が関わるようになるのではないか。行政と自治会がお互いに意見を出し合いながら、話し合いを続けていきたい。

【緑が丘地区】

区長は1年で交代するのに、どのように人材育成に取り組むのか。1年交代であれば、昨年どおりに事業を進めていく

ことが多くなるので、人材育成までできない。また、自治会に加入するメリットは何か、と高齢の方が言っている。例えば、敬老会等に参加する方は喜んでくれているが、自治会員全員に喜んでもらうのは難しい。このような状況も踏まえて、参考となる事例について文書で回答いただきたい。

【緑が丘地区】

道路側溝について、亀裂がある箇所が多い。土地と土地の境などパトロールでは見つけにくいところなどもある。近隣の人から情報をもらいながら対処していただきたい。

【都市整備部長】

市でもしっかりとパトロールするが、自治会や地域でも見ていただき、補修が必要な箇所については、市に連絡をいただきたい。

【緑が丘地区】

雨水排出路については、時間雨量45mmに対応できるものとのことであるが、最近の豪雨ではあふれてしまって道路が冠水し、歩けないところがある。個別に相談したい。

【都市整備部長】

現場の状況を踏まえて、改善できるのかどうか相談させていただきたい。

【緑が丘地区】

淡河幹線の遊歩道は、木の根が張って凸凹が多く、高齢者が転倒したりして危険である。また、以前は有志で草刈りをしてきたが、現在は市にやっけていただいている状況である。木を伐採して全面的に再舗装してもらえれば、草刈りの手間も省けていいのではないかと考えている。近隣住民と協議した上で、市と相談したい。また、災害時要援護者について、情報提供の同意がない方については災害時に公民館で名簿をもらって対応するようにとのことだが、これでは対応できない。豪雨や地震の際は自分の身を守ることで精一杯の状況であり、公民館に名簿をもらいに行つて要援護者の支援をするというのは現実的ではない。災害時には、近隣の人が要援護者を支援するようなかたちがいいと考えている。自治会では、近隣での助け合いを進めようとつながりを作る努力をしている。災害時に要援護者をすぐに支援できるよう、要援護

者の名簿の取扱いを改善できないか。

【危機管理課長】

情報提供の同意がない方について、災害時に公民館に名簿をもらいに行くというのは、市としてもいいシステムとは考えていない。しかしながら、現状ではこの取扱いをせざるを得ない。市としては、同意がない方に対し災害時の支援が難しいことを説明し、同意を得たい。

【健康福祉部長】

災害時要援護者は、緑が丘地区内に233人おられる。そのうち情報提供の同意がない方が35人おられる。この人たちに説明していくこととなる。

【緑が丘地区】

側溝の継ぎ目にすき間があるなどボロボロの箇所が多い。家が新築でも側溝がボロボロのところもある。予算の関係もあるが、計画的に整備いただきたい。また、ガス管の整備はどうなっているのか。さびなどで劣化していると考えられ、大事故につながるのではないかと心配している。

【上下水道部長】

ガス管は大阪ガスが管理しているため、大阪ガスに確認した上で回答する。

【都市整備部長】

側溝の整備については、どれだけできるかわからないが、対応していく。

【緑が丘地区】

寄付制度について、三木駅の再生だけでなく、災害などその他のことについての寄付制度を立ち上げることは可能か。

【危機管理課長】

災害時の義援金については、個別の市町に対する義援金にできるよう研究してほしいという意見をいただいている。他市町で義援金を個別の市町にお渡ししている事例もあるので、同様の制度の創設に向けて研究していきたい。

【緑が丘地区】

災害時の1次避難所として、以前は地区内の学校が指定されていたが、現在は1次避難所に公園が指定されている。今年は災害も多く、高齢者も多い状況で、災害が発生した時に

防災設備のない公園に集まってどうすればいいのか。災害は、深夜や冬場にも発生する場合がある。どれくらいの時間、公園にとどまる想定なのか。

【危機管理課長】

1次避難所は緊急避難場所として考えており、避難所開設までの避難先という位置づけである。

【緑が丘地区】

避難所を開設した場合は、市からの連絡はあるのか。連絡方法がメールやSNSでは高齢者には伝わらない。

【危機管理課長】

市から連絡はするが、それが届くかどうかが問題である。高齢者にいかに情報を伝えるかということは、市も懸念している。自治会や地域での防災講習の際には、市から情報を出すので、自分から情報を取りに行くことも考えていただきたいということをお伝えしている。

【副市長】

1次避難所は、一時避難をする場所ととらえていただきたい。災害が起きたときとにかく集まる場所である。情報伝達についても、災害時は情報がシャットダウンするため、みんなで1次避難所に集まって、情報を得た人がみんなに情報を伝えていくということをおイメージしている。

【緑が丘地区】

空きびんポストが地区内に設置されているが、不法投棄に困っている。10月から1か所を廃止し、残りの1か所についてはいつでもポストに廃棄できていたものを、回収日だけポストに廃棄できるように変更した。それでも不法投棄が続いている。三田市では、空きびんポストで回収していたが、ごみステーションでの回収に変更したと聞いている。空きびんポスト自体の費用の削減や台風時のポストの飛散対策がなくなるなどメリットもあると思われるので、ごみステーションでの回収をお願いしたい。

【生活環境課長】

東播磨5市2町で構成するカレット推進協議会において、経費を抑えながら効率的に空きびんのリサイクルを推進するための協議を積み重ねた結果、空きびんポストによる回収

方法を行っているところである。三田市は昨年までカレット推進協議会に入っていたが、三田市にカレット化する事業者が出てきたため、同協議会から脱退し、三田市単独で回収をしてもコストが抑えられることから、今年度同協議会から脱退してごみステーションでの回収を行っている。三木市においてもごみステーションで回収するとすれば、清掃センターに集めて分別することとなる。しかしながら、清掃センターには収集作業ができる曜日が空いていないため、難しいと考える。したがって、現状では空きびんポストによる回収を継続したい。

【緑が丘地区】

三木市には、立派なゴルフ場やスポーツ施設がある。施設での大会などのときにバスを増便できないか。子どもたちの大会でも保護者が送迎している。大会があるときには、公共交通の利用を促すことや市のPRのための特産品の販売を行えば、市外、県外から人を呼び込めるのではないかと考えている。

【市長】

公共交通のPRをしっかりとやっていきたい。

【産業振興部長】

イベントの際に観光協会が出店をし、三木市のPRをしているところであるが、PR方法をもっと考えていきたい。

【緑が丘地区】

広野ゴルフ場前に行く階段からトーホーストアまでの歩道については、歩道と車道を同じ高さにして段差を解消し、歩行者が通るための路側帯を作っていただきたい。段差がある状態では車いすの方が通行しにくい。また、西1丁目の公園から緑が丘小学校南側までの急傾斜地については、5、6年前に斜面の改良を市にやってもらったが、豪雨が続いた場合に大丈夫なのか心配である。砂防ダムのように砂防線を設ければ、土砂災害は防げる。

【都市整備部長】

路側帯の設置とは緑色のカラー舗装のことかと思う。これは緊急避難的な措置であるため、歩道を整備するべきと考える。ご指摘のとおり古い歩道には段差があるため、現在本町

地区において歩道の段差を解消する工事を行っており、継続して取り組んでいく。

【教育総務部長】

急傾斜地については、どういう対策ができるのか県と相談をしたい。仮にこういう対策をするということが決まれば、地区と相談させていただく。

【緑が丘地区】

水道管の工事が進められており、次に道路の舗装も行われると思うが、しっかりと取り組んでいただきたい。